

ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線アドバイザーボード（第3回）

議事要旨

1. 日時

令和4年3月23日（水）13:00～15:00

2. 場所

WEB会議

3. 出席者（敬称略）

（1）構成員：

飯塚 留美（一般財団法人マルチメディア振興センターICT リサーチ&コンサルティング部シニア・リサーチディレクター）、櫻田 洋一（CQ 出版社取締役兼 CQ ham radio 編集長）、高尾 義則（一般社団法人日本アマチュア無線連盟会長）、寺田 麻佑（国際基督教大学教養学部上級准教授）、藤井 威生（電気通信大学先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター教授）、藤原 洋（株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO）、三木 哲也（一般財団法人日本アマチュア無線振興協会会長）

（2）総務省：

野崎電波部長、荻原電波政策課長、翁長移動通信課長、市川電波政策課検定試験官、伊藤移動通信課課長補佐

4. 議事

（1）開会

（2）議事

・アマチュア無線を始めやすくする（始めてもらう）について

（3）閉会

5. 議事の経過

○アマチュア無線を始めやすくするについて、制度の現状等について説明。

○①無線従事者資格（初級資格である4アマ）の取得の迅速化について、②アマチュア無線の開設・運用までの手続の迅速化について、③青少年等の初心者の視点でアマチュア無線局免許申請書等を分かりやすい様式とすることについて、意見交換。

○構成員から次のような意見があった。

①無線従事者資格（初級資格である4アマ）の取得の迅速化について

○今の小中学生は忙しく、スピードの時代でもあり、青少年に技術への興味を持ってもらう観点からも、アマチュア無線の世界に入りやすくなる環境整備が望ましい。

○養成課程の受講者にとって、会場への移動や宿泊、青少年の場合の親の同伴、講習会の受講費用や日数が、養成課程を受講するかどうかにつながるのではないか。

- 無線従事者資格の取得の迅速化は必要と思われるが、学ぶ内容が薄まるのはよくない。養成課程の内容は維持することが必要。4アマでも無線機器を自作する場合は相当の知識と技能が求められるため、授業・教科書内容も相応なものが必要。
 - 初級資格である4アマの多数が養成課程を経て資格を取得している。資格取得の迅速化の手法として、4アマの養成課程におけるeラーニングのさらなる活用、4アマの養成課程の受講日数の短縮、4アマの養成課程の効率化や4アマの下に初級資格をつくるといった意見が出たが、さらに検討していくことが必要。
- ②アマチュア無線の開設・運用までの手続の迅速化について
- アマチュア無線に対する意欲が高いうちにアマチュア無線局を開局し、アマチュア無線の楽しみを感じてもらえれば、将来的に専門分野に進んでいく人材も増えていくと思う。無線従事者資格の能力を担保した上で、開局までの期間を短縮することが望ましい。
 - 日本の免許制度の中で無線従事者と無線局の免許を一体化することはできないが、迅速化の手法として、無線従事者免許と無線局免許の申請が同時にできるようにすること、オンライン申請をさらに充実させるなど、より早くアマチュア無線が開局できるようにすることが望ましいのではないかと。具体的な方策については整理が必要だが、行政コストの観点も踏まえた実現可能な手続の迅速化について検討が必要。
- ③青少年等の初心者の視点でアマチュア無線局免許申請書等を分かりやすい様式とすることについて
- 初心者の小中学生等は、技術基準適合証明等を受けた機器を購入することが多いと思われ、これに着目して、初心者にとって分かりやすい申請書等とすることが望ましいのではないかと。
 - 自身の無線局免許申請時に、購入製品の取扱説明書を見ながら入力したが、初心者にとっては記載に手がかかると思われる点もあった。
 - アマチュア無線局免許申請書等は、わかりやすく・やさしい方がいいとの観点で検討すべきだが、これによる行政コストの観点を踏まえた検討もすべき。

以上